原稿見本

上余白；２５mm

□□□クリンカーの焼成条件と水和反応に関する一考察　　←1行目；講演題名

↑全角スペース３字分空ける　　←2行目；同上・予備行

←3行目；空欄

豊島大学工学部　　　　　　○利根太郎　　←4行目；所属・著者名

桜橋建設(株)技術研究所　　　筑後次男　　←5行目；同上・予備行

←6行目；同上・予備行

←7行目；同上・予備行

←8行目；空欄

←9行目；空欄

←10行目；本文開始行

左余白；１７mm

右余白；１７mm

1．まえがき

クリンカーの焼成条件は、セメントの性質を左右することが知られている。［略］◇◇。

2．実験の概要

2．1　使用材料

当研究に使用した材料の化学的性質を表1に示す。

表1　使用材料の化学的性質

2．2　試験方法

（1）　○○○○試験

当研究において、○○を確認するため、写真1に示す装置により○○○○試験[1)]を行った。その条件として［略］◇◇◇。

写真1　○○○○試験装置

（2）△△△試験

また、当研究では△△△についても実験を行った。この方法によると、△△△は式［1］により◇◇の関数として表現できることが知られている[2)]。

$$Y=\alpha \cdot \beta \cdot \varepsilon \qquad [1]$$

ここにY：△△△指数
　　　α：実験定数
　　　β：実験定数
　　　ε：実験定数

◇◇。

（3）試験の条件

試験に際して、次の条件を設定した。それぞれの条件ごとに、表1に示した使用材料のうち試料Aから試料Cまでの組み合わせに対して試験を行い、試料Dおよび試料Eについては式［2］で表される温度条件[3)]を加えた。

$$T=2.86 \cdot \theta_0 \cdot (\alpha^2) \qquad [2]$$

ここにT　：設定温度
　　　θ_0：外気温度
　　　α　：実験定数

［略］◇◇◇。

下余白；２５mm　　(ページは不要)

２．３　試験結果および考察

試験結果を表２および図１に示す。

表２　試験結果

図１　焼成温度の影響

また、図２には□□らの実験[4]より得られた結果と今回の結果を比較した場合の◇◇におよぼす影響を図示した。

［略］◇◇◇。

図２　試験結果の比較

これらの結果より次のことがいえる。

（1）［略］◇◇◇。

（2）［略］◇◇。

（3）［略］◇◇。

３．まとめ

以上の実験によりつぎのことが明らかになった。

（1）温度の影響は、モルタルの圧縮強度による比較では明確な差異がないといえる。◇◇◇。

（2）［略］◇◇◇。

（3）［略］◇◇。

（4）［略］◇◇。

（5）［略］◇◇。

（6）［略］◇◇。

【参考文献】

1) 筑後次男：セメントの種類と水和に関する研究、セメント・コンクリート、No.580、pp.23-29(1996)

2) 利根太郎：クリンカーの焼成条件に関する研究、セメント製造技術シンポジウム報告集、No.53、pp.11-18(1996)

3) 吉野左武郎ほか：化学専門委員会報告 I-30、セメント協会 (1980)

4) T.Tone et al.：Ordinary Portland Cement, The Cement Vol.20, pp.657-680(1990)

(ページは不要)